

ガイドライン改訂に当たっての検討課題

課題 1 定期的、継続的なモニタリングが重要であること。

- 地熱開発前のデータがないと影響評価ができないため、開発前からの定期的なモニタリングを行うことが重要。
- モニタリングデータの整理（地点、項目、頻度等）（項目は、温度、湧出量のほか、電気伝導率など）
- 発電事業者、温泉事業者、自治体それぞれにとって将来リスクへの対応として重要。
- 正確な科学的情報を把握し、これを一般に理解できる形で共有することは、協力体制の構築に寄与。
- 環境影響評価との関係性に留意が必要。

課題 2 情報共有の場としての協議会の設置が重要であること。

- 科学的なデータを含む関連情報を共有し、客観的に議論することで、相互理解と協力意識を醸成する場。
- ファシリテータの活用、関係者が信頼できるモニタリングの仕組みが重要。
- 温泉源についての将来に渡るリスクを共有し、その対応を図る場であること。
- 発電後の熱水の活用による地域還元と地域の共存・共栄に向けた協議の場であること。

課題 3 小規模地熱発電についても考慮する必要があること

- 小規模発電についてモニタリング調査や協議会又は説明会等を実施していない事例があり、資源保護や地域との共存・共栄という観点から対応が必要。